

			2025年度		授業計画	
国際オートメカニク科						
時 期	1年後期	単元	実習	教科名	定期点検	
科 目	自動車整備作業・測定 作業・自動車検査作業	教科書等 持参品	定期点検作業要領書（日産自動車）		発行日	2024年1月18日
総時限	33時限（52時間）				教科担当	教科担当
1. 実務経験のある教員による授業科目 該当 非該当						
自動車整備士として、自動車の定期点検の経験がある教員により定期点検基準に則った指導をする。						
2. 教科の目的（この学科の狙い、目的を明確に記入）						
12ヶ月点検項目作業及び日常点検項目を指定された時間で点検する。 定期点検記録簿の記入ができる。						
3. 授業の到達目標（この授業を学ぶことで学生は何を理解し何ができるようになるのか）						
1. 時間内決められた点検項目を正しく点検し、良否の判定ができる 2. 定期点検記録簿の記入を、正しくできる						
4. 学習評価（期末試験での主な試験項目）						
実技試験（70点）、スピーチ（8点）レポート（9点）、ループブック（13点）の評価合計点が60点以上で教科履修とする。						
5. 準備学習						

2025年度 授業計画

国際オートメカニック科

時 期	1年後期	単元	実習	教科名	定期点検	
7. 授業概要（時限ごとの主な授業内容）					8. 教科書、資料、備品類	
時限	主な授業内容				資料、備品類	数量
1	導入 法定点検概要 点検整備記録簿記入のルール				定期点検作業要領書	
2	点検整備記録簿記入のルール / 部品検索(EPC取り扱い)				インパクトレンチ	12
3	■点検作業手順 エンジンルーム				インパクト用ソケット（21mm）	12
4	■車両1 点検作業 エンジンルーム					
5	■車両2 点検作業 エンジンルーム				インパクト用ソケット（30mm）	12
6	■車両3 点検作業 エンジンルーム				エアホース	12
7	点検作業手順 足廻り				ハブキャッププライヤ	12
8	■車両1 点検作業 足廻り				ハブキャップ取り付け用ドリフト	12
9	■車両2 点検作業 足廻り				エアゲージ	12
10	■車両3 点検作業 足廻り				スケール（150mm）	12
11	■車両1 作業習熟（エンジンルーム 足廻り レポート作成）				スケール（300mm）	12
12	■車両2 作業習熟（エンジンルーム 足廻り レポート作成）				ラジエータキャップテスト	12
13	■車両3 作業習熟（エンジンルーム 足廻り レポート作成）				音波式ベルトテンションメータ	12
14	点検作業手順 下廻り				トルクレンチ	12
15	■車両1 点検作業 下廻り				タイミングライト	12
16	■車両2 点検作業 下廻り					
17	■車両3 点検作業 下廻り					
18	点検作業手順 室内					
19	■車両1 点検作業 室内					
20	■車両2 点検作業 室内					
21	■車両3 点検作業 室内					
22	■車両1 作業習熟（下廻り 室内 レポート作成）					
23	■車両2 作業習熟（下廻り 室内 レポート作成）					
24	■車両3 作業習熟（下廻り 室内 レポート作成）					
25	■車両1 総合習熟 スピーチ練習					
26	■車両2 総合習熟 スピーチ練習					
27	■車両3 総合習熟 スピーチ練習					
28	■実技評価1（スピーチ）					
29	■実技評価1（スピーチ）					
30	■実技評価2（EPC）					
31	■実技評価3(点検)					
32	■実技評価3(点検)					
33	■教材確認 修復作業					

■：対面授業

		2025年度		授業計画	
国際オートメカニク科					
時 期	1年後期	単 元	実 習	教科名	定期点検
7. 安全（KYのため必ず授業内で説明）					
番号	作業名	遵守事項		災害事例	チェック
	リフト操作時の安全確認	声がけ、視認確認			
	メカニクグローブの着用	ホイールナットのバリに注意			
	ハブキャップブライヤの使用方法	手を挟まないように注意			
	遮熱板点検時の安全確認	板が薄いので手を切らないように注意			
	リフトダウン位置の注意事項	完全にリフトダウンするとエンジン始動後のATフルード量確認時や灯火装置確認時のエンジン始動中のシフトレバー操作時に車両暴走の危険があるため完全にリフトダウンしない。			
	エンジン始動時の安全確認	安全確認後、声がけする。			
	ラジエータキャップテストの取扱い方法	暖気後の取り外し時、火傷に注意			
	セレクトレバーの操作	必ずブレーキをふんで操作する ※シフトロック解除ボタンを使用しない		エンジン始動中、シフトロック解除ボタンでセレクトレバーを操作、ブレーキを踏んでいなかったため走行レンジに入った瞬間車両が発進した	
8. 授業レイアウト（写真の貼り付けも可）					
実習場			座学教室		